

		平成29年度			平成30年度	
		手法	中間 委員評価	年度報告 取組事項	年度報告 自己評価	手法
(1) 湿地の 保全・再 生		<p>1. カキ礁の手入れ作業の実施と休み場づくり 北池に拡大するカキ礁の手入れ作業の実施。広がっているカキ礁を浅い部分に移動させ、積み重ねて鳥の休み場などとして活用する。 【築港中学校・海遊館（市岡高校）との共同プロジェクトとして実施】</p> <p>2. 緑地部分で採取した落ち葉の投入による湿地の環境改善 干潟内への落ち葉投入については、水質や底質の調査等を継続して実施するなど経過を観察しつつ、砂質化の抑制・底層生態系の創出を図る。落ち葉は野鳥園の緑地部分で採取したものを活用する。</p> <p>3. 塩分の測定 塩分測定を継続して実施し、湿地環境のモニタリングを行う。</p>	<p>1. 野鳥園の干潟は河川水の影響など様々な要素が絡み合い多様な環境を生み出しているという観点を持ちつつ、今後も環境のモニタリングを行ってほしい。また、湿地部の池の塩分測定にあたっては、より測定精度の高い機器を使用することが望ましい。</p> <p>2. 湿地部への落ち葉投入に関しては、底生生物や利用鳥類の増加など一定成果も出ており、評価できる。今後はフルボ酸（腐食物質）などにも注目してみてもどうか。</p> <p>3. 東アジアオーストラリア地域フライウェイパートナーシップの研修会には、大阪市として継続して参加するのが望ましい。</p>	<p>1. シギ・チドリ類の渡来種数 春（3～5月）22種類 【目標22種】 秋（8～10月）27種類 【目標24種】</p> <p>2. カキ礁の手入れ作業 海遊館や築港中学校との共同プロジェクトとして北池のカキ礁手入れ作業を行い、その後、生徒たちと生物調査を行った。</p> <p>3. 新たな休み場作り 南池の新たな休み場作りは6月・8月・1月の計3回に実施した。また、展望塔前に小鳥が止まりやすい木を立て、観察しやすいよう工夫した。</p> <p>4. 落葉投入による環境改善 落葉投入による環境改善については、底生生物や利用鳥類数の種類などの変化について、継続して経過観察を行った。</p> <p>5. 塩分の測定 干潟現況調査や底生生物調査の一環として、昨年度より塩分測定を行っている。今春に高性能で利便性の高い塩分測定器を導入（港湾局にて購入）したことから、今後は精度の高い湿地環境のモニタリングが可能となる。</p>	<p>1. カキ礁の手入れ作業の実施と休み場づくり 北池のカキ礁移動により積み上げたカキ礁に多くの生物が定着し、また、多くの鳥類がカキ礁を休み場や餌場に利用していることが確認されており、一定の効果が見られた。また、移動することにより、北池干潟のシギ・チドリ類の餌場も拡大した。 平成30年度も学校や市民と協働して、継続した取り組みが必要である。また、新たにカキ礁に集まる魚類調査も実施したい。</p> <p>2. 緑地部分で採取した落ち葉の投入による湿地の環境改善 落ち葉投入した箇所に対し、底生生物や利用鳥類の状況など、効果の経過観察を行っているが、底生生物の増加が確認でき、サギ類やシギ類が餌場として多く利用していることも確認できた。 また、29年度は経過観察の段階であったため湿地PTを開催しなかったが、30年度には湿地PTを開催し効果の結果をまとめ、今後の湿地環境改善に繋げる。</p> <p>3. 塩分の測定 干潟内の塩分については、海遊館が行った大雨後の調査では半海水程度の塩分になっており、今後も大雨後の塩分の変化に注視した調査も必要である。 新たに導入した塩分測定器を使用することにより精度を上げ、測定頻度も検討し、引き続き生物調査</p> <p>4. その他 ・東アジアオーストラリア地域フライウェイパートナーシップ（EAAFP）などの自治体職員による会議については、今後も継続して参画していきたい。</p>	<p>1. カキ礁の手入れ作業の実施と休み場づくり【継続】 北池に拡大するカキ礁の手入れ（移動）作業の実施。広がっているカキ礁を浅い部分に移動させ干潟の餌場の拡大を図るとともに、積み重ねて鳥の休み場などとして活用する。 【近郊の校園や市民ボランティアに呼びかけ】</p> <p>2. 緑地部分で採取した落ち葉の投入による湿地の環境改善【継続】 干潟内への落ち葉投入（野鳥園の緑地部分で採取したものを活用）については、水質や底質の調査等を継続して実施するなど経過観察しつつ、効果の取りまとめを行う。また、新たに北池の干潟の砂質化について現況調査を実施し、砂質化の抑制・底層生態系の創出を図る。</p> <p>3. 塩分の測定【継続】 塩分濃度と干潟に生息する生物との関係を調査し、今後の対策の参考とするため、塩分測定を継続して実施し湿地環境のモニタリングを行う。</p>
	(2) 魅力 ある環境学 習会の実施 とトータル コーディネ ーターの育 成	<p>1. 環境学習の手法の改善についての検討 ・野鳥観察会時にも湿地部を活用するなど内容を充実し、定員充足率を向上させる。 ・学校・海遊館と共同で実施するカキ礁移動作業は作業完了後の翌月に生き物調査も行い環境保全体験と生き物の学習を総合的に実施する。 ・アカテガニ観察会については、参加者がより身近に観察できるように手法を検討する。</p> <p>2. 野鳥ガイドの充実 野鳥ガイドの増員を図る（現在21名⇒目標26名）とともに、全ガイドを対象にフォローアップ研修を適宜実施し、種々のガイドや環境学習会に対応できる人材を育成する。</p> <p>3. 住之江区内の学校への環境学習の利用促進 地元住之江区内の学校や市民に環境学習の場として野鳥園を利用してもらうよう働きかけを行っていく。</p> <p>4. トータルコーディネーターの育成 ・リピーター→サポーター→野鳥・湿地ガイド→トータルコーディネーターと段階的に人材育成できるよう、まずはリピーター確保の取り組みから実施していく。 ・また、年間の事業全体を通して適正な湿地保全と魅力ある環境学習会の企画立案及び広報の充実に取り組み、他湿地管理団体と継続して交流することによって視野を広げスキルアップを図り他都市での取り組み事例などから野鳥園臨港緑地独自の取り組みについても検討を進めていく。</p>	<p>1. 中学校とのカキ礁に関する環境学習の取組みは、移動作業だけではなく、生物調査も行われており評価できる。今後もこのような取り組みを進めていくとよい。</p> <p>2. 他水域の干潟や塩性湿地で活動している団体との情報共有や交流は重要であり、トータルコーディネーター育成の観点からもこれを継続するのが望ましい。</p>	<p>1. 環境学習会の改善と定員充足率の向上 アカテガニ観察会において、観察場の整備や参加者への特典の充実を図った。また、各種環境学習会の定員充足率の増加に向け、都度、観察会の内容について改善に努めた。</p> <p>2. 環境学習と環境保全体験の総合的な実施 野鳥園の独自の取り組みとして、カキ礁移動作業と生物調査の総合的プログラムを実施した。</p> <p>3. 野鳥ガイドの充実 野鳥ガイドについては、新たな4名に対し、ガイドの実践などスキルアップを図った。</p> <p>4. リピーターの確保 引き続き、観察会の個別案内（希望者）や野鳥園だよりの配布など、リピーターの確保に取り組んだ。</p> <p>5. トータルコーディネーターのスキルアップ トータルコーディネーターについては年3回（4月・9月・2月に実施）大分県中津干潟で活動する団体と交流し、参考となる環境学習の手法等について意見交換を行なうなどスキルアップに努めた。</p>	<p>1. 環境学習の手法の改善についての検討 ・環境学習会の定員充足率は最終的に98%となり、昨年度より大幅に増加し、また、初めて野鳥園の観察会に参加した市民も増加（初参加者93名〔昨年度より+48人〕）した。引き続き、観察会などの内容充実を図る。 ・アカテガニ観察会では、日没までの待ち時間を要したことや、連日の日照りや観察場所の除草のタイミングが観察会間際となり、観察できたアカテガニの匹数が例年より少なかった。今後、観察に有効な開催時期・時間の精査を行うほか、各種観察会についても、湿地部の活用などについても引き続き検討し、更なる内容充実をめざす。 ・学生・生徒によるカキ礁移動作業と生物調査の総合的プログラムは大変に有意義であったため、30年度も引き続き実施するとともに、これまでの参加の校園以外への拡大や市民ボランティアの募集についても検討する。 ※カキ礁移動作業に参加した築港中学校や市岡高校による活動内容については、昨年11月、マリンラーニング「海の宝コンテスト」（事務局：北海道大学）において優秀賞を受賞</p> <p>2. 野鳥ガイドの充実 野鳥ガイドは今年度4名増員したが、年度目標に対して1名不足した。ガイド業務の円滑な運営を図るため、引き続き、増員に取り組むたい。</p> <p>3. 住之江区内の学校への環境学習の利用促進 住之江区の学校との環境学習会は実施できなかったが、H30年度はカキ礁移動作業等、環境学習への参画に向け働きかけを行いたい。</p> <p>4. トータルコーディネーターの育成 トータルコーディネーターにおいても、他水域の干潟や塩性湿地で活動している団体との情報共有や交流を今後も継続して行い、人材育成を図っていき</p>	<p>1. 環境学習の手法の改善についての検討【継続】 ・昨年に引き続き、カキ礁移動作業及び移動箇所生き物調査を行い、環境保全体験と生き物の学習を総合的に実施する。また、新たにカキ礁に集まる魚類調査も実施する。 ・アカテガニ観察会の観察に有効な場所や開催時期・時間の精査を行い、参加者がより身近に観察できるよう工夫・検討する。</p> <p>2. 野鳥ガイドの充実【継続】 野鳥ガイドの増員を図るとともに、全ガイドを対象にフォローアップ研修を適宜実施し、種々のガイドや環境学習会に対応できる人材を育成する。</p> <p>3. 学校への環境学習の利用促進【継続】 地元住之江区等の近隣の学校や市民に、環境学習の場として野鳥園を利用してもらうよう引き続きPRに努める。</p> <p>4. トータルコーディネーターの育成【継続】 ・リピーター→サポーター→野鳥・湿地ガイド→トータルコーディネーターと段階的に人材育成できるよう、リピーター確保の取り組みを継続して実施していく。 ・また、トータルコーディネーターは年間の事業全体を通して適正な湿地保全と魅力ある環境学習会の企画立案及び広報の充実に取り組み、他湿地管理団体と継続して交流することによって視野を広げスキルアップを図り、他都市での取り組み事例などから野鳥園臨港緑地独自の取り組みについて検討を進めていく。</p>

		平成29年度			平成30年度	
		手法	中間 委員評価	年度報告 取組事項	年度報告 自己評価	手法
(3) 広報活動の充実		<p>1. 効果的な情報発信の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 区広報紙や新聞への掲載について、効果的な広報媒体として引き続き活用していく。また、地元住之江区民の方に野鳥園の魅力を知ってもらえるよう、区広報紙への特集記事（施設案内・事業案内）の掲載にむけて住之江区役所と連携・調整を図る。 ホームページや、ブログやスタッフ個人によるfacebook等のSNSを引き続き活用し情報発信を行う。 新たに展望塔に設置する下敷きや野鳥園パンフレットの作成を行うなど、掲示物等の充実を図る。 年間4回、季節に応じて野鳥ガイド日、観察会の案内を掲載する「野鳥園だより」を新たに発行し、野鳥ガイドから来園者に手渡しして配布するほか、試行的に環境学習会参加者の希望者に、野鳥園だよりの送付やイベントの案内を適宜実施する。 <p>2. 大阪港開港150年記念事業への参画</p> <p>野鳥園開園以来、大阪港の環境保全に関わってきたことから、本年実施される大阪港開港150年記念事業に参画していく。</p>	<p>1. 新パンフレットの制作にあたり、野鳥園の魅力発信ができるようアカテガニやハクセンシオマネキなど野鳥園ならではの貴重な生物や塩性湿地の機能などの題材を取り上げるなど、工夫してはどうか。</p> <p>2. 大阪港開港150年記念事業の一環として行った歴史パネル展示等は、大阪港の発展と環境保全をテーマにするなど工夫されており評価できる。</p> <p>3. 中国の清華大学や上海動物園など海外からの視察、また、国交省による干潟の定量的評価調査の機会が国際的・国内的なよいPRの場となるので高く評価できる。</p> <p>4. 来園者数の把握は重要であり、防犯も兼ねたカメラの設置・活用を検討してはどうか。</p> <p>5. 委託事業の最終年度である来年度には、これまでの事業総括を行い、それらを対外的に発信できるようぜひ検討してほしい。</p>	<p>1. 広報媒体の活用</p> <p>年間を通じ、新聞や区広報誌など各種広報媒体を積極的に活用して、観察会の参加者数の増加、リピーターの確保に向けて取り組んだ。特に、地元の住之江区役所に働きかけ、区広報紙「さざんか」1月号に特集記事（1ページ）の掲載を行った。</p> <p>2. 新パンフレット・野鳥園だよりの制作</p> <p>新たな広報用パンフレットの制作にあたり、施設・野鳥案内の他、野鳥園ならではの貴重な生物や塩性湿地の機能などの紹介なども取り入れ作成した。また、野鳥園だより（春・夏・秋・冬号）を作成・発行し、野鳥園だよりは、野鳥ガイドにより来園者に手渡すなどし、リピーターの確保に繋げている。</p> <p>3. 平成25年末の指定管理者制度の終了以降、展望塔の来園者数の把握ができていなかったが、常駐者がなくても来園者を把握できるよう、人感式のカウンターを導入した。（平成30年4月、港湾局により機器設置・運用開始）</p> <p>4. 大阪港開港150年記念事業への参加</p> <p>市庁舎で開催された歴史パネル展示会に出展「テーマ：渡り鳥と人をつなぐ野鳥園～大阪港の発展と環境保全～」したほか、大阪港クルーズ、大阪港子ども見学会においてもリーフレットの配布や船内放送を行い、野鳥園のPR活動を行った。大阪港歴史パネル展示会に出展した野鳥園コーナーのパネルは現在、展望塔に掲示している。</p>	<p>1. 効果的な情報発信の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境学習会に関しては、定員充足率が年間平均で98%となるなど、効果的な広報が行えた。引き続き、野鳥園の魅力発信を、継続して行っていきたい。 ※H30.5.13開催 春の野鳥かんさつ会 <ul style="list-style-type: none"> 定員50名に対し約70名の申し込み アンケート結果 【どのようにして知ったか】 <ul style="list-style-type: none"> 新聞31%、区広報誌19%、口コミ26%、インターネット12% 他 新パンフレットには、野鳥園の魅力発信ができるようアカテガニやハクセンシオマネキなど野鳥園ならではの貴重な生物や塩性湿地の機能などを取り入れて制作した。展望塔に設置する「野鳥説明用下敷き」についても、わかりやすいものなるよう現在、企画中であり30年度に作成・設置を行いたい。 <p>2. 大阪港開港150年記念事業への参画</p> <p>平成29年度は大阪港開港150年記念事業に連携して取り組みを行ったが、これまで大阪港の環境保全にも関わってきた野鳥園の存在意義をPRするよい機会となった。</p> <p>次年度は、現在の業務委託契約（長期継続）の最終年であるため、事業総括や、必要に応じてその総括した内容（成果物）を対外的に発信する手法について検討を行う必要がある。</p>	<p>効果的な媒体を活用し、幅広い層の市民に対し野鳥園で実施している環境学習会などの情報を発信する。</p> <p>1. 効果的な情報発信の実施【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> 区広報紙や新聞への掲載について、効果的な広報媒体として引き続き活用していく。 ホームページや、ブログやスタッフ個人によるfacebook等のSNSを活用し、工夫・改善を図りながら情報発信を行う。 新たに展望塔に設置する野鳥解説の下敷きの作成を行うなど、掲示物等の充実を図る。 年間4回、季節に応じて野鳥ガイド日、観察会の案内を掲載する「野鳥園だより」を継続して発行し、野鳥ガイドから来園者に手渡しして配布するほか、環境学習会参加者の希望者にイベントの案内を適宜実施する。 <p>2. 今期事業の総括と貴重な環境資源のPR</p> <p><u>現行の事業委託の最終年度となることから、港湾局・建設局・NPO法人ウェットランドグループの3者で事業の総括を行い、将来の野鳥園干潟・湿地の環境保全に繋げるとともにホームページなどで発信する。</u></p> <p>また、今期事業の活動内容や野鳥の飛来状況、底生生物やアカテガニ・ハクセンシオマネキ等、貴重な環境資源をPRするため、一般市民を対象に環境学習会（観察会と同時開催）を企画・実施する。</p>